

4 呼吸を調べる

- 気道を確認した状態で、自分の顔を傷病者の胸部側に向ける。
- 頬を傷病者の口・鼻に近づけ、呼吸の音を確認するとともに、自分の頬に傷病者の吐く息を感じとる。
- 傷病者の胸腹部を注視し、胸や腹部の上下の動きを見る。
- 10秒以内に調べる。

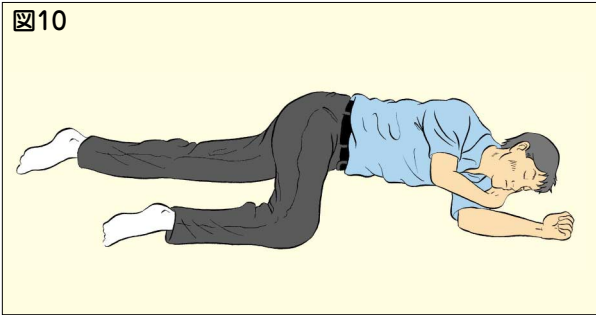


ポイント

- 頬はできるだけ傷病者の口・鼻に近づける。
- 呼吸音も聞こえず、吐く息も感じられず、胸腹部の動きがなかったり、それらが不十分な場合には、「呼吸なし」と判断する。

参考 回復体位

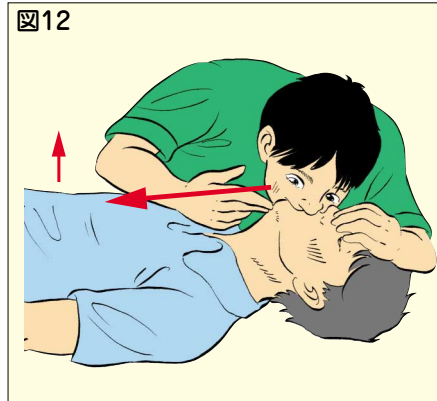
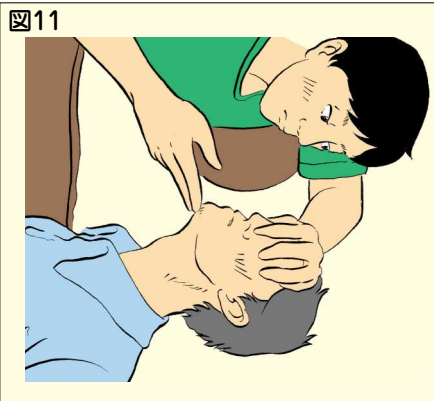
- 意識はないが十分な呼吸をしている場合には、吐物等による窒息を防ぐため、傷病者を回復体位にする。
- 下あごを前に出し、両肘を曲げ上側の膝を約90度曲げて、傷病者が後ろに倒れないようにする。



回復体位（側臥位）のとらせ方

5 人工呼吸（口対口人工呼吸により、肺に空気を送り込む）

- 呼吸がなければ人工呼吸を開始する。
- 気道を確認したまま、額に当てた手の親指と人差指で傷病者の鼻をつまむ。
- 口を大きくあけて傷病者の口を覆い、空気が漏れないようにして、息をゆっくりと2回吹き込む。



↑約2秒かけて500ml～800ml
(10ml/体重1kg)吹き込む。

↑胸の動きと呼吸を確認する。